

2019年6月9日

## 内戦再発八周年記念World Kachin Congress声明

8年前の今日、ビルマ軍はカチン独立軍(KIA)を攻撃し、1994年から17年に及ぶ停戦を破った。そしてビルマ北部で再開した戦争は360の村から12万人以上を避難させた。

北部ビルマでのビルマ軍による占領と攻撃は現在まで続いており、避難民の帰還を不可能にしている。現在のビルマ軍による一方的な停戦宣言は、アラカン州での作戦に全戦力を集中している事実からして、明らかに平和を宣伝するための策略でしかない。同時にビルマ軍は代理政党や民兵に武器給与し、カチン州での少数民族コミュニティ間の衝突をそそのかしている。

4月、ムゼでの和平交渉の予定されていた丁度前日にビルマ軍第99軽歩兵師団はムゼ東部のKIA基地を数ヶ所攻撃して占領した。これは明確にKIAにNCAを調印させるための圧力であり、計画中の中緬経済回廊を実現させるためのものである。ビルマ軍は世界最長の内戦に平和的解決を求めていない証拠である。ビルマ軍は武力を用いて少数民族を服従させ、社会的環境的な影響を考慮せずに事業利益のために土地を占領して天然資源を搾取している。パッカンの荒廃は乱開発による災害の一例である。

残虐行為を防ぐための人道的な法律や協定、裁定にもかかわらず、我々は現実政治と国民国家の利益のためにナチスによるユダヤ人問題の最終的解決、ポルポトによるキリング・フィールド、大日本帝国による南京大虐殺の再現を目撃し続けている。国連事実調査団によるビルマ軍の戦争犯罪、人道に対する罪、虐殺の証拠が明らかになったにもかかわらず、国際社会は21世紀最初の虐殺国家への対応をまとめきれていない。

故に我々は以下を要求する。

1. 経済制裁とビルマ軍の攻撃を削減するための武器輸出の全面禁止
2. ビルマの継続的平和へ向けての政治的対話を実現するために、国連安全保障理事会でのビルマ軍部隊の少数民族地域からの撤退命令決議
3. ビルマの真の平和の保証が得られるまで全ての巨大インフラ開発のための投資と天然資源採取計画の停止
4. ビルマ情勢の国際刑事裁判所へ委託、もしくは特別国際戦犯法廷の設置と戦争犯罪加害者と集団虐殺の指揮者の提訴
5. 自発的で安全な帰還が可能となるまでのカチン他の少数民族の国内避難民への国境を越えた人道的援助

連絡先

Mr. Nsang Gum San (USA) 電話番号: +1 443-415-8683

Mrs. Marip Seng Bu (日本) 電話番号: +81 904 076 6579

Mr. Zauring Hpunggan (ニュージーランド) 電話番号: +64 021 183 1134